

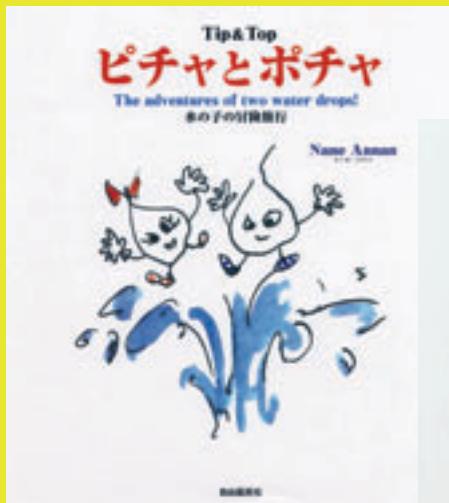


UNIC Tokyo Dateline UN

March 2003 Vol.39

国際連合広報センター

ナーネ・アナン国連事務総長夫人の 絵本ができました！



あなたは一日にどれくらいの水を使っていますか？ふた粒の水滴「ピチャとポチャ」が水の大切さを伝えてくれます



国連ってなんだろう？
どんなことをしているの？



「第3回世界水フォーラム」参加のため来日し、ノートルダム学院小学校を訪れて講演を行ったナーネさん

絵本はいずれも株式会社自由国民社より出版されています。本に関するお問い合わせは自由国民社（Tel: 03-3543-5541）へどうぞ。

国連事務総長夫人のナーネ・アナンさんが国際淡水年2003の今年、水をテーマにした絵本『ピチャとポチャー水の子の冒険旅行』(原題 "Tip & Top The adventure of two water drops!")を出版しました。今回の出版は写真絵本『国連に行ってみよう』(原題 "The United Nations - Come along with me!")に次ぐ2冊目の発表で、文とイラストをナーネさんが手がけています。

本書では水不足や水質汚染など深刻化する世界の水問題を、ふた粒の水滴「ピチャとポチャ」の冒険を通じてわかりやすく説明し、水の大切さを伝えています。また前作『国連に行ってみよう』と同様に、絵本は和文英文併記くなっているので、ナーネさんの語りかける声を想像しながら楽しんでいただけることでしょう。

3月16日から23日にわたり京都、滋賀、大阪で開催された「第3回世界水フォーラム」に参加したナーネさんは、期間中、ノートルダム学院小学校を訪れて講演を行いました。子どもたちの熱心な質問に丁寧にこたえる姿が印象的でした。

INSIDE

「国際淡水年2003」とは？	2
「国際淡水年2003」に寄せる アナン国連事務総長メッセージ	3
「国連に援助の用意あり－人道的挑戦」 イラクでの人道支援に関する広報担当 事務次長寄稿文	4
UNギャラリー・新展示のお知らせ	5
「国際女性の日」第2回国連機関合同 公開フォーラムから	6
「国際女性の日」に寄せる アナン国連事務総長メッセージ	7
国連広報センター新所長就任ご挨拶	8

<http://www.unic.or.jp/>

International Year of Freshwater 2003 国際淡水年



きれいで新鮮な水をいかにして確保するかは人類が今日直面するもっとも重要な問題の一つとなっています。この問題は将来においてもますます深刻な問題となっていくものと思われます。水に対する需要は供給を上回り、河川や湖水の汚染は続いている。

このかけがえのない資源についての認識を高め、そのより良い管理と保全のための活動を活性化させる目的で、国連総会は2003年を「国際淡水年」と指定しました。今年、水をテーマにした行事が世界各地で行われており、3月16日から23日まで京都、滋賀、大阪では「第3回世界水フォーラム」が開催されました。

「飲料、衛生、食糧の安全保障のための水入手できないために、人類という家族の十億を超える人々が耐えがたいほどの厳しい生活を強いられています」とコフィー・アナン国連事務総長は述べています。「こうした傾向が今後も続くなら、水資源はますます国家間の緊張と激しい競争をもたらす原因となるでしょう。しかし、こうした問題は協力のための触媒となることもできます。国際淡水年は必要な行動を生み出すという重要な役割を果たすことができます。単に政府ばかりではなく、世界中の市民社会、共同体、企業セクター、それに個々の人々による行動です」。

合意された目標

国際年に指定された今年は非常に重要な時期にあたります。現在12億人の人々が安全な飲料水にアクセスできず、また24億人の人々が適切な衛生施設を欠いています。安全でない水が原因となった病気のために毎年300万以上の人々が死んでいます。こうした状況を受けて、世界の指導者たちは水資源と衛生施設の問題を解決するとの大きな目標に合意しました。

2000年9月、世界の指導者たちは国連ミレニアム・サミットにおいて、安全な飲料水を利用できない人々の割合を2015年までに半減させることに合意しました。そして、ヨハネスブルグで開かれた持続可能な開発に関する2002年世界サミットにおいては、適切な衛生施設を欠く

人々の割合を同じく2015年までに半減させる目標についても合意しました。

これらの目標を実現するには、政府の行動ばかりではなく、水資源を利用し、それに投資する人々の行動を調整する必要があります。相当の資金も必要です。現在、世界の飲料水の供給と衛生施設の提供に年間およそ300億ドルが費やされていると推定されています。水資源と衛生に関する目標を達成するには、さらに年間140億から300億ドルが必要であると見積もられています。



水不足はまた、将来的な開発にとっても非常に重要な問題です。20世紀には水の利用は人口増加率の2倍の割合で増えてきました。地下水の過剰開発の結果、地下水表面が下がり、アメリカのコロラド川や中国の黄河など、いくつかの川は海に到達する前に干上がってしまうことがあります。

中東や北アメリカ、南アジアなどの地域では、慢性的に水不足が続いている。すでに、世界の10人に4人は水不足の地域に住んでいます。2025年までには、世界人口の3分の2—およそ55億人の人々—が深刻な水不

足に直面する国で生活することになると予想されます。

こうした状況を改善するには、世界的に水資源を効率的に利用する必要があります。たとえば、水資源の最大の消費者である農業では「一滴の水でより多くの穀物を」のようなプロジェクトを進めることが重要です。流域の管理をよくする必要があります。特に都市の漏水量を減らす必要があります。都市においては水の損失量は給水量の40パーセントにも相当しています。

国際淡水年のホームページは
www.wateryear2003.org



2015年までに達成すべきミレニアム開発目標

- 1) 極度の貧困および飢餓を半減させる
- 2) 普遍的な初等教育を達成する
- 3) 女性のエンパワーメントをはかり、男女間の平等を促進する
- 4) 5歳未満の死亡率を3分の2引き下げる
- 5) 妊産婦死亡率を4分の3引き下げる
- 6) HIV/エイズ、マラリアなど、病気の蔓延を減少させる
- 7) 環境衛生を確保する
- 8) 援助、貿易、債務救済を目的に開発のためのグローバルなパートナーシップを発展させる

国際淡水年2003に寄せるコフィー・ナン国連事務総長メッセージ

国連総会が宣言した「国際淡水年2003」はとても重要な時期にあるといえます。2000年の国連ミレニアム・サミットにおいて、世界の指導者たちは、安全な飲料水を利用できずにいる人々の割合を2015年までに半減させることに合意しました。2002年にヨハネスブルクで開催された持続可能な開発に関する世界サミットにおいては、この目標に見合ったもう一つの目標、すなわち、基本的な衛生サービスにアクセスできない人々の割合を同じく2015年までに半減させるとのコミットメントが採択されました。これらの目標を達成することができなければ、私たちは重大な結果に直面することになるでしょう。命にかかる病気が蔓延・流行し、地球環境がさらに悪化し、食糧安全保障への脅威と安定そのものが脅威に見舞われることになるでしょう。開発途上国の水問題はもっとも急を要する問題ですが、先進国も同じく水問題の危機に直面しています。

世界は水資源に対する取り組み方を改善する必要があります。これまでと比べてはるかに効率的な灌漑、有害物質のずっと少ない農業や工業、水に関連したインフラやサービスに対する新たな投資——私たちが今必要としているのはこうしたことです。私たちはまた、水を求めて毎日長い距離を歩かなければ

ばならない女性や少女たちからその重荷を取り除く必要があります。その代わりに得られた時間や努力は、教育と自分自身、自分の家族、ひいてはそのコミュニティのより良い生活を築くことに費やされることでしょう。「国際淡水年」はこれらの目標を達成すべく

世界の国々を動員しなければなりません。そのためには人々の認識を高め、新しい考え方や戦略を生み出し、参加とパートナーシップ、平和的対話を促進しなければなりません。私たちの努力を一つにまとめましょう。今、利用可能な知識や技術を十分に利用しましょう。世界の貴重な淡水資源を守るために最善を尽くしましょう。淡水資源は21世紀における生存と持続可能な開発のための生命線なのです。



国連に援助の用意あり

～人道的挑戦～

以下は国連の広報担当事務次長を務めるシャシ・タロール氏が世界の主要メディアにあてた寄稿文です。
日本ではすでにヘラルド・朝日、および朝日新聞に掲載されています。



シャシ・タロール氏

戦争は死、破壊、絶望、そして避難民を生み出します。戦争の兆しが現れた当初から、国連とその人道援助機関、特に国連難民高等弁務官、国連食糧計

画、ユニセフおよび世界保健機関は休むことなく、大きな災害に対する備えを行ってきました。もちろん、私たちは今も、こうした被害が起こらないことを望んでいるのですが…。

過去20年間にわたり、イラクの人々は2度の大きな戦争に耐え、現在もう一つの戦争のさなかにいます。国土には内戦と暴動の傷跡が残り、12年に及ぶ厳しい制裁は多くの犠牲を強いてきました。中東でもっとも発展した国の一につい數えられていたイラクのインフラは崩壊しました。イラクの人々は清潔な水、ヘルス・ケア、医療物資および衛生設備を欠いています。

ユニセフの推計によれば、イラクの5歳未満の子ども100万人が、慢性の栄養不足に苦しんでいます。国民の6割以上が国連の食糧と石油の交換計画による配給物資に依存しています。タンパク質と鉄分の摂取不足が原因で、イラクでは妊婦の半分が貧血症にかかっています。戦争とそれがもたらすサービスと物資供給の崩壊は、さらに事態を悪化させ、数百万人が食糧と飲料水を得られなくなる恐れがあります。

多くのイラク国民は、近隣諸国に避難する可能性があります。そうなった場合、国連機関にはこれらの人々を助ける用意があります。すべての近隣諸国が、庇護を求める難民にその国境を開放しつ



イラクの子どもたち（2003年1月）

づけることは、とても重要です。国連は周辺地域に、食糧、避難所、医薬品など、当初1カ月で200万人までの難民流出に対処できる必要物資を事前に準備しています。国連はこの作業に必要な手段を確保するため、昨年12月に1億2,300万ドルの資金拠出アピールを行いましたが、これに対する反応は極めて不十分で、現在のところ、拠出金は4,500万ドルに止まっています。

戦争終結後にイラク国民に食糧と援助を提供するため、国連はさらに多額の資金拠出アピールを行う必要があります。

緊急の人道援助は、国連の諸機関、基金および計画の設置理由にもあるように、その責任は国連が担うものです。国連は今回の事態に備え、調整され、また徹底した総合的緊急時対策を策定してきました。このため、国際システムの不意をつくことの多かつたこれまでの大半の危機に比べ、国連の準備は整っています。

同時に、国際法によれば、戦渦あるいは紛争に巻き込まれた一般市民を保護する責任は交戦国にあることも強調

しなければなりません。イラクにおいても、その主たる責任は交戦国にあります。事実、国連は戦争勃発時に、その国際職員を退避させています。ユニセフと世界食糧計画の勇敢な現地職員は今も、イラクで活動を続けていますが、国連全体としては、現地で十分な活動を行える状態にはありません。

国連にもっと多くを望むことができるはずだとする声も聞かれます。4年前、これも国連の承認を得ない武力紛争を受けて採択された安全保障理事会決議は、戦後コソボの統治を合法化し、その民政を司るよう国連に要請しました。歴史は繰り返し、イラク戦争では無力と考えられていた国連が、戦後和平で中心的役割を果たすことになるのではないかとする向きもあります。しかし、アナン事務総長が明言しているとおり、安全保障理事会から具体的な権限が与えられなければ、国連が厳密な意味での人道援助を超える活動を行うことはできないでしょう。

軍事占領下のどの地域においても、一般市民の福祉に関する責任は占領勢力にあります。復興、民政、および、統治機構に関する諸問題はすべて、戦後に取り扱う必要があります。しかし、国連がそのいざれかに関与するためには、安全保障理事会の理事国による合意がなければなりません。

それまで、国連はなすべきことをする用意を整えています。それはすなわち、戦闘当事者の責任を減じることなく、戦争被害者への援助を提供することに他なりません。そしていつか、イラク国民がこの苦難を経て、自らの生活と社会を再建する援助を必要とする時が来れば、国際社会はその責務を果たさなければならないのです。



「国際淡水年2003」記念展がスタート

【写真右】

タデマイト高原から見下ろしたインペル
ベル・オアシス
(アルジェリアで 2001年)



【写真下】

イマーム(モスクの長老)とキアル・エ
ルー(水主)が農園への水の分配を計算
する
(サハラで 1981年)



期間 : 2003年4月7日(月) ~ 5月30日(金)
土日、祝祭日および国連の休日は休館

時間 : 午前10時~午後5時30分

場所 : UNギャラリー (UNハウス1、2階)



Water Year 2003

東京・渋谷のUNハウス(国連大学ビル)のUNギャラリーでは、2003年4月7日(月)から5月30日(金)まで「国際淡水年2003記念展『乾燥地帯の伝統的水利技術—カナートについて考える—』」を開催します。

国連総会は2000年12月20日、地球の将来における水の中心的な重要性を認識するため、2003年を「国際淡水年」と宣言しました。この国際年を機に国連は、水がいかに大切なものであるか、その貴重な資源に対する考えを今一度新たにし、現在起こっている、もしくは今後予想される水不足や水質汚染など水をめぐるさまざまな問題の解決を目指しています。

技術が進歩している現在、水が豊富といわれている国々では、水道や用水システムを当然のこととして考えています。しかし、貧しい国々では水資源が乏しく、

人々へ安全かつ充分な水を供給することが非常に困難な状況にあります。特に乾燥地域においては、限られた水源をいかに効率よく利用するかということが問われます。

UNギャラリーでは、国際連合大学(UNU)上席学術顧問である小堀巖氏の研究テーマを中心に、乾燥地帯での水利用の現状を写真と共に紹介します。特に、沙漠地帯に古代から伝わり、近年その価値が見直されている伝統的灌漑技術「カナート」にスポットを当て、日本ではあまり知られていない乾燥地帯での水利用の現状を考えます。

人間の営みに必要不可欠な淡水の重要性やそれに関する課題を通じて、国連が提唱する国際淡水年の意義と、その活動への理解を深めていただけることでしょう。



International Women's Day

3月8日は 国際女性の日

UNハウスにて第2回公開フォーラムを実施

「国際女性の日」を記念する国連機関共催の公開フォーラムが3月6日、東京・渋谷のUNハウスで開催されました。昨年に続き第2回となる今フォーラムのテーマは「女性のエンパワーメント～ミレニアム開発目標の達成にむけて～」。2000年9月の国連ミレニアム・サミットで合意されたミレニアム開発目標の達成には女性のエンパワーメントが不可欠であることから、国際女性の日を機会に、この国際社会共通の目標を改めて認識することを目指したものです。

およそ200名の参加者が集ったフォーラムは、ハンス・ファン・ヒンケル国連大学学長がコфиー・アナン国連事務総長のメッセージを代読して始まりました。この日に寄せたメッセージの中で、アナン事務総長は「女性が成功することによって社会のすべての者が恩恵を受け、将来の世代は人生のよりよいスタートを切ることができる」として、ミレニアム開発目標の達成には世界の女性たちに投資することが重要だと述べました（全文は7ページに掲載）。

川口順子外務大臣のメッセージに続き、文京学院大学大学院教授で元文部大臣の赤松良子氏が「女性のエンパワーメント」と題する基調講演を行いました。赤松氏は20世紀初頭に世界各地で始まった女性の参政権を求める動きについて説明し、3月8日が国境・民族・文化・言葉の違いを

超えて女性が集う国際デーとなるに至った経緯を紹介しました。また、国連における女性問題の推移を振り返り、1975年の国際婦人年に始まった一連の動きが「国際女性の10年（1976～1985年）」を経て、日本では1985年の「女子差別撤廃条約」の批准に結実したことを高く評価しました。赤松氏は「平等なくして平和なし、平和なくして平等なし」との認識を示し、世界平和のために女性が連帯しようと呼びかけました。

続いて行われたパネル・ディスカッションには、参議院議員で開発のと女性議員連盟の会長を務める南野知恵子氏、30年にわたる国連勤務のうち現在は特定非営利活動法人2050の理事長を務める北谷勝秀氏、そして国際協力事業団（JICA）と国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）シニア・リエゾン・オフィサーのファティマ・シェリフ・ノル氏が参加しました。「女性のエンパワーメント」をテーマに、平和構築における女性の役割や女子教育の重要性、そして今も残る男女不平等への取り組みなどについて幅広い意見が交わされました。

今フォーラムがイラクでの大量破壊兵器査察をめぐって安保理内に対立がみられる状況下で行われたことを反映し、戦争が女性に与える影響についても話が及びました。ソマリア出身でUNHCRに勤務し、現在、交流人事計画によってJICAで活動中の

シェリフ・ノル氏は、人権侵害や難民の流失など、戦争がミレニアム開発目標の達成に与える影響に懸念を示しました。

唯一の男性パネリストであった北谷氏は、絶対貧困人口が減少しない点など地球規模的問題の解決が進まない理由として、「生命を生み育むという女性の視点が男性に欠如している」と述べ、男性の非協力を是正するため世界の政治家・宗教指導者による呼びかけが必要だと強調しました。

ミレニアム開発目標の達成に関する議論では、各国政府の熱心な取り組みが不可欠であり、日本は人間開発の分野で指導力を發揮することが求められているとの意見がありました。その一方で、ミレニアム開発目標を達成する上で重要なのは単なる目標数値の達成ではなく、平等の「質」を向上させることとの指摘も受けたなど、活発な議論が続きました。

男女の平等については、南野氏からは「重要なのは男性と女性の数の比ではなく、どれだけ人間性が評価されるかである」との意見や、北谷氏の「日本人女性は高学歴なわりに考え方方が内向きな傾向にあり、国際性・先見性の欠如が気にかかる」とのご指摘がありました。女性のエンパワーメントの実現には男女を問わず、一人ひとりの意識改革が引き続き求められていることを改めて認識するきっかけとなりました。

**国際女性の日
第2回公開フォーラム
女性のエンパワーメント
～ミレニアム開発目標の
達成にむけて～**



公開フォーラムにご参加いただいたスピーカー、パネリストの方々。左から赤松良子氏、南野知恵子氏、北谷勝秀氏、ファティマ・シェリフ・ノル氏

共同開催：国連食糧農業機関（FAO）、国際労働機関（ILO）、国連人道問題調整事務所（OCHA）、国連開発計画（UNDP）、
国連環境計画国際環境技術センター（UNEP IETC）、国連人口基金（UNFPA）、国連ハビタット（国連人間居住
計画：UN-HABITAT）、国連広報センター（UNIC）、国連児童基金（UNICEF）、国連工業開発機関（UNIDO）、
国連大学（UNU）、国連ボランティア計画（UNV）、世界銀行（WB）、世界食糧計画（WFP）

後援：内閣府、外務省

■ ■ ■ ■ ■ 「国際女性の日」に寄せるコフィー・アナン国連事務総長メッセージ ■ ■ ■ ■ ■

「ミレニアム開発目標」はジェンダーの平等や女性のエンパワーメントなど、開発を進める上での新しい方法を示したもので、ミレニアム宣言に謳われている8つのコミットメントは21世紀により良い世界を築くための青写真であり、特定の目的を持ち、明確な目標を掲げ、期限を定めたもので、すべての国連加盟国から支持されています。これらのコミットメントは、ニューヨークからナイロビ、ニューデリーに至るまで、普通の男女が容易に支持し、理解することのできる単純な、しかし力強い、測定可能な目標をあらわしています。

これらの目標を達成するための活動において、ミレニアム宣言にもはっきりと示されているように、ジェンダーの平等はそれ自体が目的であるだけでなく、その他の目標を達成するために非常に重要です。これまで行われてきた数々の研究は、女性が中心的な役割を果たすような開発戦略でない限り、その効果が期待できないことを示しています。女

性が十分に関与した場合、その恩恵は速やかに現れます。すなわち、家族が健康になり、食事内容が改善されます。収入や貯蓄、再投資も増えていきます。そして、家族について言えることはコミュニティについても、また長期的にはすべての国々についても言えることなのです。

すなわち、農業から保健に至るまで、また環境保全から水資源の管理に至るまで、私たちは女性のニーズや優先順位に焦点を合わせて開発の努力を進めて行かなければなりません。このことは、学校に通えない子どもの大多数を占める少女の教育を促進することを意味します。また、読み書きのできない5億人の成人女性が識字を習得できるようにすることを意味します。これらの女性は世界の成人非識字者の3分の2を占めています。

また、女性を中心にHIV/エイズとの闘いを進めることを意味します。現在、世界のHIV感染者の50パーセントが女性です。アフリカにおいては、女性感染者の数は58パーセント

にも達しています。私たちは、女性や少女たちが自分自身を守るために必要な技能やサービス、自信を持てるようにならなければなりません。私たちは、危険を犯す代わりに責任を取ることを男性に奨励しなければなりません。社会のすべての階層を超えて十分な社会変革が行われ、女性と男性の関係を変化させる必要があります。それによって、女性は財政的にも物理的にも、自分自身の生活をより良くコントロールできるようになるでしょう。

目標期限とする2015年までにミレニアム開発目標を達成しようとするならば、無駄に過ごす時間は少しもありません。達成が期待できるとすれば、その唯一の方法は世界の女性たちに投資することです。女性が成功することによって社会のすべての者が恩恵を受け、将来の世代は人生のより良いスタートを切ることができます。この国際女性の日にあたり、そのことを心に留め、新たな緊急性を持って行動するよう、私は私たちすべての人に呼びかけたいと思います。

国連広報センター新所長よりごあいさつ

コフィー・アナン国連事務総長の任命を受け、3月17日、国際連合広報センター（東京）の新しい所長に野村彰男氏が就任しました。活字ジャーナリズムでの豊富な経験を生かすとともに、当広報センターを通じて国連をより身近な存在として感じていただけるよう務めてまいります。

21世紀を迎えたとき、私たちはみな、新しい世紀が「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀とは違う平和な世紀になることを願っていました。けれども、これまでのところ、米国を標的にした同時多発テロとそれに続くアフガニスタン攻撃、そして今回のイラク戦争と、世界の現実は私たちの願いを無残に裏切り続けています。

特にイラク戦争は、アナン国連事務総長らの努力にもかかわらず、安全保障理事会が期待通り機能しない形で始まったため、厳しく「国連の存在意義」を問う声が聞かれました。

では国連の存在意義は本当に薄れたのでしょうか。それは考えません。

イラク戦争に世界の関心が集中しているときも、アフリカでは国連がNGO等とともに貧困や飢餓、エイズなど病気の救済のために懸命の活動を続けていました。アフガンでも平和構築の作業を進めていますし、イラクでも、戦後復興となれば国連は中心的役割を果たすに違いありません。環境保護のために、難民のために、女性や子供の権利のために、途上国の持続可能な開発のために、国連が世界で果たし、期待されている役割は限りなく大きいのです。

いまや191もの加盟国が集う国連は、2つの世界大戦の反省から築かれた最も貴重な人類の共有財産と言っても過言ではありません。武力対立が終わり冷静に立ち返ったとき、罪のない多数の一般国民まで犠牲にし破壊



国連広報センターの野村彰男新所長。所長室には、訪れた世界の街角を描いた自筆の水彩画が飾られている

を尽くしたあとで平和構築をはかるより、戦争を予防する努力を尽くす方が賢明ではないかという認識に立ち返り、国連の役割、安保理の機能が見直されるもの信じています。

うれしいことに日本では国連への信頼が高く、国際機関で仕事しようという若者が増えています。私たちは国連の役割を理解していただき、関心を高めていただくために懸命に努力する決意であります。よろしくお願い申し上げます。

国連広報センター所長 野村彰男

経歴

1967年朝日新聞社入社。1970年より主に国内の政治問題を担当する政治記者として与野党、首相官邸、外務省などを担当。1979年～1982年ワシントン特派員。帰国後、政治記者、政治部次長、外報部次長、論説委員を歴任。1991年～1993年アメリカ総局長として再びワシントンに赴任。1994年～1998年、朝日新聞論説副主幹として日本の外交政策、日米関係、国連問題などを担当。朝日新聞総合研究センター前所長。



発行：国際連合広報センター

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-70 UN ハウス 8階

TEL: 03-5467-4451

FAX: 03-5467-4455

URL: <http://www.unic.or.jp> / E-mail: unic@untokyo.jp